

地域政党

光と影 都議選を前に



～下～

パナソニック創業者の松下幸之助さんが一九七九年に設立した松下政経塾（神奈川県茅ヶ崎市）。これまでに二百六十三人（うち女性三十一人）が卒業し、百十人が国会議員や首長、地方議会などの政治分野に進んだ。小池百合子知事ら首長が主宰する政治塾とは、どう違うのか。

小池さんにとって最大の壁は、やはり都議会。橋下徹さん（前大阪府知事・前大阪市長）もそうですが、行政のトップからすると、議会で否決されたら元も子もない。首長の勝手気ままにさせないという二元代表制のいい部分でもあるが、小池さんが知事に選ばれたゆえんを実行しようとするれば、議会に「与党」を増やすしかない、ということでしょう。

河内山哲朗^{（河内山）}塾長は松下政経塾の二期生。一九九三年から十六年間、山口県柳井市長を務めた。

私が市長になった当初、支持してくれたのは二十六人のうち五人だけ。議会と話し合

松下政経塾塾長

河内山哲朗 前山口県柳井市長



（こちやま・てつろう 1993～2009年に山口県柳井市長（4期）。社会保険診療報酬支払基金理事長を経て、昨年4月に公益財団法人松下政経塾の塾長に就任。早稲田大卒。58歳。）

えは可決されるかというとなかなか今はそうならない。首長と議会がねじれると、本筋ではないところで労力をとられてしまうんです。

ただ、トップには陥りやすい共通のわながあります。周りが違つ意見をだんだん言わなくなる。私の場合、「それは違う」と言い続けてくれたのは妻だけでした。小学校の統合に「みんな賛成」という報告だったのに、集会に出た

らすこい反対だね。「裸の王者」になってしまつんです。政経塾は四年間の全寮制で、研修資金・活動資金も支給している。首長が議会での支持拡大を視野に、候補者を発掘する政治塾と趣を異にしている。

者として、政治は生産性が低いのではないかという疑問も大きなテーマでした。「道は無限にある。できないのは熱意不足だ」と松下は言っていましたね。

国民を幸せに、世界を平和に、そして経済を繁栄させるためのビジョンづくりと、それを実践する政治家を育てるのが原点。もつひとつは納税

も次に続かないのは、基本的な振る舞いとかで失敗しているんです。有権者は厳しく見られていますから。

（木原育子）

有権者は厳しく見ている